

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	飯南町地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
島根県	323861	3	平成23年～平成25年	平成23年
活性化計画の区域				
島根県飯石郡飯南町 飯南町地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
交流人口の増加	18.85	48.32	256.33	関連観光施設における入込者数

(コメント)

併設の「加田の湯」の平成25年度利用者は36,926人（前年度比4.3%増）であり、本事業の整備により集客効果が出ている。特に、平成25年3月30日には中国自動車道尾道松江線の三次東JC～吉田掛合IC間が開通し、国道54号線の交通量の大幅な減少による入込者数の減少と、地域経済に及ぼす影響が懸念されたが、一定の集客を得ることができている。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林水産物直売・食材提供供給施設	食堂施設の新築 設計業務委託 一式 建設工事：敷地整備 750㎡ 木造平屋建て 150.92㎡			飯南町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
飯南町	平成23年度	平成23年度	平成24年5月	
事業の効果				
地域の特徴を生かした食材を提供し続け、当初計画の一日45食を上回り、多いときには70食、平均しても50食の提供となっています。併設している温泉施設についても利用者数が増加傾向にあり、本町を始めとして周辺地域の観光交流施設等の連携により、誘客確保が図れている。 今後も、本町の優れた観光資源と魅力ある食を組み合わせることにより、更なる交流人口増加を目指し地域振興を図る。				

3 総合評価

(コメント)

施設の工事に際して、付近で行っていた別の工事現場から出た土を運び、敷地の造成に利用した。また、地元森林組合を通して、出来るだけ地元の森林で成長した木材を利用するよう心がけ、併設の温泉施設と一体感をもった内装・外装とした。また、通路を通り、温泉施設と行き来が出来るので、温泉に入れる田舎レストランとしてPRできる施設となっている。このように木を多用したことから、木のぬくもりを感じる癒しとくつろぎの施設となり、多くのリピーターの利用がある。

4 第三者の意見

(コメント)

本施設は開設以来、弛まぬ内容の充実と集客努力により着実に経営効果、地域経済効果を挙げている。経営効果では食堂施設において着実に客数を増やすとともに、開設後は併設する温泉施設の入り込み客も増加しており、集客にも貢献している。地域経済効果として最も大きいのは所得創出効果であり、約15人の地域の女性に対し新たに700万円の収入を生み出している。また、同食堂では積極的に地元食材を利用しており、地域の農業振興にも貢献している。

以上、本事業活用の成果は十分挙がっているが、今後さらに効果を高めるための課題として次の3点を付記しておく。1点目は集客対策の充実であり、既にある食堂メニューの魅力のPR方法を充実するだけでもより一層利用者を増やすことができると考える。2点目は地元食材のより一層の利用枠拡大であり、調理方法の工夫を含め取り組むことで、食堂の魅力を向上させ、かつ原価率を抑えることにもつながると考える。3点目は担い手対策であり、若者層を中心としたスタッフローテーションに徐々に組み替えていくことで本施設の次世代のリーダーを生み出せる可能性があると考えられる。

島根県中山間地域研究センター地域研究スタッフ主席研究員
有田昭一郎

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。